

JPC

NEWS
Vol. 15

Japan Pentecostal Council



特集
とどける

2018.5



寺田 文雄

日本ペンテコステ協議会議長
(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事長)

主の御名を賛美しつつ、ご挨拶を申し上げます。

本号のテーマは「とどける」であります。JPC に所属する諸教会が、今日の多様化とグローバル化が進行する社会の中で、どのように人々に福音をとどけるかを学び合うことを願ったテーマです。

日本の教会の今日的な課題の一つは、「教会と牧師の高齢化」であり、「牧師の後継者の確保」と言われています。ある教団では「2030年問題」と呼ばれ、教会員の平均年齢が2030年には日本人の平均寿命を超えることが予測されるそうです。

教会と牧師の高齢化は、2つの点で問題を秘めています。第1は、社会環境の変化や時代の文化の変化に対しての不適合が生じること。第2は、教会活動のエネルギーと教会経済の低下をもたらし、伝道と教会の成長を結果的に停滞させることです。

「今日の教会寿命」を調査した研究者によると、欧米の活動的な教会のライフサイクルは40年程度であり、それを過ぎると多くの教会は下降の危機に向かうそうです。新たな成長モデルと方策を見出し、シフトした教会のみが生き残るという厳しい現実を、その研究者は指摘します。40年という数字は、日本の教会状況に当てはまらない面がありますが、人間の寿命のように、教会にも寿命に似たライフサイクルがあるという視点は、今日の状況から興味あるものと言えます。それぞれ責任を委ねられた教会が、生き生きとしたライフサイクルを保ち、福音をとどける使命を全うしたいと願っています。

この課題を克服する道は、次世代への効果的なアクセスを見出し、次世代の宣教リーダーを育てる働きをキリスト教界全体で活性化し共有し、日本の教会の若返りを全体で促進することです。次世代を巻き込み、日本の教会の発展のビジョンを共有して進もうではありませんか。

被災地に届ける

イエス・キリスト福音の群

東北中央教会開拓伝道スタッフ 中山愛希子



東日本大震災で被災された方たちへのボランティア活動が始まって、今年で7年が経ちました。5年間はボランティアとして仮設の集会所で、お茶を出して一緒に時間を過ごし、歌、体操、マッサージなどをして、毎月一回イベント活動をしていました。そして関係づくりが深まったこともあり、昨年1月から2ヶ所で礼拝をスタートすることができました。一つは宮城県石巻市にある復興住宅での集まり（さくら町会）、もう一つは石巻市にある仮設での集まり（PCC会）です。

さくら町会は、復興住宅の一人の方の家で集まっており、私ともう一人の姉妹と二人で毎週土曜日に行って礼拝をしています。その家の方とは仮設にいた時からずっと関わっていたので、関係も深まっていて、集まりをさせて頂いています。

復興住宅の近所のお友達が、その方家に集まってきます。お昼ご飯を作って持って行き、昼食後に礼拝をしています。そこでは、賛美とメッセージ、献金、祈りの時間をもっています。毎週6～8名ほどの方が集っていますが、そのほとんどの方がノンクリスチャンです。しかし福音を聞くことに抵抗はなく、毎週聖書の言葉に耳を傾けておられます。

すでに近くの教会で洗礼を受けられたという方も二人います。一人のまだノンクリスチャンの方の証ですが、「夜寝る前に胸が苦しくなって、イエス様、イエス様と祈ると痛みが消え、眠ることができるんだ」と、みんなに分かち合ってくれました。その証を聞いて周りのみんなも「イエス様って祈ったらいいんだ」と、私たちの代わりに伝道してくれました。神様が働いてくださっていることに感謝します。

最後に必ず祈りの時間を持ちますが、その際はそれぞれが必要としている癒しの課題を聞いて祈ります。別の週に「痛くなくなったよ」と言って報告してくれたり、一緒に神様の癒しを体験することができています。

仮設住宅の集会所で行われているPCC会は、月一回行っています。同じ福音の群の教会であるPCC（プレイズコミュニティチャーチ）のメンバーと共に活動をしています。

アルファという伝道プログラムを用いて、聖書の学びと賛美、祈りの時間を持っています。集われる方々が賛美の中、祈りの中で涙する姿を見えています。ほとんどがノンクリスチャンですが、神様が心に介入して下さっています。今年の9月には復興住宅への引っ越しが行われるので、これからはまた新しい場所で集まることになりそうです。神様のこれからの計画に期待しています。

ボランティアとしてスタートした関係づくり



の働きが、教会へと変化しています。建物としての教会ではなく、集まっている家や場所が教会となる、そのような神様の計画を見えています。神様が被災地に働いておられます。一人一人が弟子として訓練されるまで時間はかかると思いますが、これからも被災地への活動や集まりを続ける中で、神様が働いてくださることを信じ期待します。

とどける

神の家族キリスト教会

アガペチャーチ土岐 牧師 大橋健治

それはとどけられた



私は中学二年生の時に救われました。岐阜県土岐市の駅前で、伝道集会のチラシをいただきました。小さな何もない公民館の一室でイエス様を知りました。忘れもしない福音がとどけられた瞬間でした。そのチラシを配っておられたのは、名古屋のクリスチャンライフ（当時、赤坂福音教会）の主任牧師と献身者の姉妹でした。ご自身も開拓間もないにもかかわらず、車で1時間以上かかる所での開拓を始められたのです。その尊い働きと献身によって、私に福音がとどけられました。もし、とどけられていなかったら私は滅びていました。

私の所属する宗教法人神の家族キリスト教会の生い立ちも、海外からの宣教師の方々の働きが今日の基となっています。ある宣教師は自分自身と家族をささげ、その生涯の最高の時期を日本のためにささげてくださいました。その大きな犠牲と豊かな愛のゆえに、福音はとどけられました。ああ、この愛の務めのゆえに心から感謝します。

初めに神が

福音は初めに神様がとどけてくださいました。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」(Ⅰヨハネ 4:10) 初めに神様が私たちを愛し、御子を遣わしてくださったのです。

「…初めの愛から離れてしまった。」(黙示 2:4) 私たちは初めの愛から離れてはいけません。初めの愛とは神様の愛です。「初め」(𐤀𐤍𐤏𐤓「プロトス」)とは、「最初の、最優先の、最高の」という意味です。そしてこの「愛」(𐤀𐤍𐤏𐤓「アガペー」)は、「無限で無償の神の愛」です。初めに神様が「最高の、最優先の愛」で愛してくださり、御子をさえ与えてくださったのです。ヨハネ 3:16。私たちは、先ず初めに神様から愛され、ひとり子がとどけられたことをしっかりと知らなければなりません。

とどける者に

私たちは、このようにとどけられた愛、命、福音をとどける尊い使命を頂いたのです。ローマ 10:10-15、マルコ 16:15。

●選民イスラエルに！

私たち異邦人よりも、はるか以前から世界の救いのために選ばれ、神様が共に歩まれた主の民が、民族としてイエス様をメシアとして受け入れるように、とどける者となりましょう。

●異邦人、すべての民族に！

異邦人の完成のなる時が来るために(ローマ 11:25)、全世界に、すべての民族に証されるために(マタイ 24:14)、光のある間にとどけましょう。

何をとどけるのか

●神様ご自身をとどける

神様こそすべてのすべてです。おぼれている人に「さあ！体力をつけないといけないからこれを食べて」と食料をとどけても、助けることは出来ません！私たちは人間的な助けや慰め、また、はかりごとをとどけるではありません。「天が地よりも高いように…」(イザヤ 55:9)。この天とは、神の王座です。私たちは地上のよりよいもの、最善なものではなく、「わたしの道」、「わたしの思い」と言われる主ご自身からのもの、「シャカイナ」、神ご自身をとどけなければなりません。

●兄弟姉妹を神様にとどける

兄弟姉妹を教会の諸々の交わりや活動、奉仕等、キリストのからだに導き、彼らが霊の家に築き上げられることは重要です。しかしそれ以上に、かしらであられる主ご自身との関係に導くことが何よりも重要です。主ご自身に兄弟姉妹、人々をとどけるのです。

●神様ご自身も兄弟姉妹との交わりを願っておられます

雅歌 2:14。心にシオンへの大路を整えましょう。

聖霊様に満たされて

使徒 1:8。神様からのものは聖霊様によってとどけられます。聖霊様に満たされ、神様の臨在とその力を受けて、神様のヴィジョン達成のために共に進んでいきましょう。



キリストの愛をとどける



サンビ教団

音楽主事 辻リベカ



「とどける」とは、一人では実現しません。必ずとどける側と受け取る側が存在します。神様はご自分の愛をとどける相手に、私たちを選んでくださり、私たちに神様の愛を伝える使命と喜びを与えてくださっていることを感謝致します。

当教会での福音宣教とは、愛を伝え、流し出していくことであると語られてきました。一人一人与えられた環境、場所での愛の実践を通して、私たちの内側からキリストの香りを放ち、証人として神様の栄光を現すことを目指しています。私自身も、宗教声楽のグレゴリオ聖歌を通して、声一本で神様の愛の聖さを伝える働きをさせていただいてい

ます。一クリスチャンとして与えられた賜物等を用い、置かれている場所で愛を実践することはもちろん、チャーチスクール、介護ステーション、保育園など、チームや団体としても教会で取り組んできました。

そしてこの度、新たなチャレンジとして飲食店を通して、愛をとどけるビジョンをいただき、昨年の10月から広島を代表する食べ物「お好み焼き」店を開店するに至りました。店に訪れてくださるすべての人に、神様の祝福が注がれるようにという気持ちを込めて、「お好み焼き祝（しゅく）」と名付けました。当教会の伝道師であり、私の主人でもある店長はもちろん、スタッフは全員クリスチャンで、店内のBGMも賛美やワーシップを流し、主の臨在が店の雰囲気そのものとなるようにと祈り心を持って営業しています。また、神様の聖さを大事にするため、店内は禁煙にし、アルコール類も全く取り扱わないようにしました。はじめはアルコールがないことで、怒って帰られるお客様がおりましたが、そのうち客層が変わり、今では家族連れや女性客が中心となりました。来てくださる3分の1が教会員ということもあり、家族や兄弟姉妹との交わりの場としても用いられ、祝福されています。そして、どんなに忙しくても一枚一枚丁寧に焼き、お客様を大切にし、最高に美味しいものをとどけることで、良い印象を持っていただけであることを感謝致します。



対外的な働きとして、愛をとどけることを大事にする一方で、当教会が力を入れているのは、兄弟姉妹との交わりです。主との交わりは何よりも優先され、その中で主がご自分の愛を深く私たちにとどけてくださいます。そしてその愛を受け取った私たちは、今度はとどける側にまわるのです。同世代との交わり、世代を超えた兄弟姉妹との交わり、どの交わりの中にも主の愛を知るチャンスが溢れています。実際の生活や歩んできた人生の中で、主の愛がどのように表されてきたのかをとどけ合うことによって、互いに励ましや力を得ることができます。教会の中でも、また対外的な働きを通して、どこにいても私たち自身がいることで、神の愛は広まるのです。

先日、教会の次世代が、むつみ会と呼ばれる70歳以上の方と昼食を共にし、交わりを持ちました。教会の土台として据えられてきたむつみ会の方を尊敬し、大切に思っていることを、改めて自分たちの言葉で伝えたかったからです。むつみ会の方も、若い世代への期待や希望、励ましを伝えてくださいました。互いに尊重し、思いやる気持ちが交わりの中で愛となり、笑いが絶えない心温まる素晴らしい時間となりました。愛は福音であり、私たちの原点です。それぞれ愛のとどけ方は違って、とどける愛そのものは変わりません。私たちを通して神様の愛をとどけることができることを心から感謝致します。

いつまでも変わることのない神様の愛の証人として、一人一人が成長し、またキリストのからだとしての教会の完成がこの地上に成ることを心から期待し、信じてまいりましょう。

バルナバのように持てる物を届ける

シオン宣教団

大阪シオン教会 牧師 安達隆夫



2018年3月18日から22日まで、フィリピンのピンソンズ自治体スラ村を4名の学生たちと共に訪問しました。目的は、この村にあるバービン小学校に図書館を建設するためです。これでフィリピンには5回目の訪問になりましたが、最初は2013年11月に、フィリピン中部のサマル島とレイテ島を風速90メートル超の大型台風が襲ったことがきっかけでした。この台風によって、死者7000名以上、倒壊家屋50万戸という被害が出ました。私はその被害状況をぼんやりテレビで見ながら、「自分たちも何か支援できないだろうか」と考えました。しかし、考えられることは義援金を送ることくらいですから、来週から兄姉に呼び掛けて義援金を集めようかなと思っていたのですが、ふと神様から一つの思いが与えられました。それは「ユースたちと共にフィリピンの被災地で倒壊した学校を再建しろ」というものでした。すぐに「そうだ!」と思って立ち上がり、早速学生たちに話したのですが、彼らの反応は冷ややかなもので、「そんなことできるはずないやん」、「英語も話せないし、お金もない」、「忙しいから無理」と、ありとあらゆる否定的な言葉が口にされました。

しかし、一人一人に「神様から力をもらってがんばろうよ」、「まずは何ができるか分からないから、とにかく一度被災地を見に行こう」と説得して、2014年3月、ついに5名の学生と共に初めてフィリピンの被災地を訪問しました。被害の状況は想像以上で、すでに4カ月経っていましたが、ほとんど手つかずという状況でした。学生たちはその光景を見て大いにショックを受け、それぞれが「何かできないか」と考えるようになりました。

帰国してから彼らと話し合い、家を建ててあげたいけど、倒壊した家が多すぎてそれは不可能だが、地域の小さな学校だったら建てられるのではないかということになり、学校再建のプロジェクトが始まりました。働きの名称は、自分の土地をすべて売り払って教会に献金したバルナバに倣って『バルナバプロジェクト』と名付けました。

そこからは資金集めです。彼らは学生ばかりですし、そもそも人数も少ないためにお金がありません。かといって教会の兄姉に献金をお願いばかりしては意味がありませんので、何とかお金を儲ける方法を考えました。手掛けたのはオリジナル賛美CDを録音、作成して販売することでした。教会の兄姉に買っていただき、近隣のいくつかの教会に招いていただいて証をし、販売させていただきました。また、教会をあげてバザーを行い、私も福音落語の本を作成してバルナバプロジェクトのために各地を訪問して資金集めをしました。おかげさまで1年後、フィリピンのサマル島のマブハイ小学校に最初の校舎を建設することができました。さらに働きを継続



し、翌年には2つ目の校舎が完成し、そして、今年はスラ村で図書館の建設が始まったところです。

こうして書くと素晴らしい働きに見えますが、私達の教会は大教会でも、力のある教会でもありません。若者の数は10名ほどしかいませんし、みんな普通の子供たちです。それでもできたのは、全て神様の恵みです。神様はこんな小さな働きに目を留めて下さり、私達を通してフィリピンに愛を届けることを実現させていただきました。本当にすべては主の恵みです。

私達のような、たった10人の普通のユースたちでできたのですから、誰にでも、どこの教会でも必ずできます。誰でも愛を流し出せますし、恵みを届ける者になれるというのが、この働きをして私が持った感想です。

是非とも、次々とバルナバプロジェクトが生み出され、日本中の若者が愛を届ける者に変えられることを期待しています。

とどける ジョイ・ジシュー

単立ペンテコステ教会フェローシップ

栄シャローム福音教会 牧師 小山英児



「ジョイ・ジシュー」、それはベンガル語で「イエスにあって勝利」という意味です。これはバングラデシュにある単立ペンテコステ教会のあいさつのことでもあります。TPKFと同じ北欧の流れを汲むペンテコステ教会が、アジア最貧国のバングラデシュにもあります。聖霊の流れの中で、TPKFの宣教協力もアジアにおいてなされています。その一部をご紹介します。

バングラデシュはイスラム教国であり、約90%がイスラム教徒、9%がヒンドゥー教徒、クリスチャン人口は1%未満です。しかし、霊的飢え渴きは大きく、2015年に私が関わらせていただいた伝道集会でも1776人がイエス・キリストを信じ受け入れる祈りをしました。また、現地の情報では、南部地域の単立ペンテコステ教会において、昨年一年間だけで600人がイエスを信じ、水のバプテスマを受けたということです。問題は、イスラム教国のゆえに、クリスチャンになることは、生活の基盤を失うリスクが伴うということです。貧困と迫害の中で多くのクリスチャンの子どもたちは、教育を受けることもできず、貧困のサイクルから抜け出すこともできません。児童労働、児童婚の問題だけではなく、女の子は中東に人身売買されてしまうことさえあります。

そこで、バングラデシュの単立ペンテコステ教会が中心になって、「ホーム・オブ・ピース」という全寮制の学校（小学生から大学生まで）を設立し、運営しています。学問だけでなく、技能訓練、そして生活に必要な衣食住が支給されています。多くの子どもたちは毎日食事が食べられるというだけでも幸せだと言います。2015年には250名ほどの学生でしたが、現在618名が在籍しています。チャプレンが常駐し、毎朝の早天祈祷会、礼拝が導かれています。これらの子どもたちが次の世代の教会のリーダーとなり、バングラデシュの将来と希望と

なります。ホーム・オブ・ピースの現在の一番の課題は、教室棟を建てるための資金が与えられることです。(残念ながら大きな NGO 団体(キリスト教系も含め)からの支援は断られてしまいました。)運営費全体の半分を北欧の単立ペンテコステ教会の関係が援助しています。日本でも2016年から TPKF が中心となって HOP 支援会を立ち上げ、援助活動をしています。(さらなる支援を必要としています。導かれた方はぜひご支援をお願いします。郵便振替:HOP 支援会 00210-4-138499 HP:hopsupporters.com)

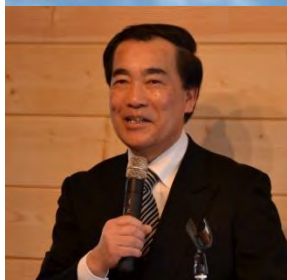
今年の冬は、バングラデシュでも異常に寒い日が続き、2℃まで下がりました。施設には暖房設備ありませんし、子どもたちは毛布さえも持っていませんでした。(古着をバングラデシュに送っても、高い関税のため、現地で調達するよりも高額となるため、受け取ることができません。)今回は、日本からの HOP 支援会が中心となって援助し、子どもたちに毛布を届けることができました。



エゼキエル47章にあるように、終末の時代における聖霊の働きは、あらゆるところに流れていき、キリストにある新しいいのちを与えています。人々は救われ、癒され、社会は変革していきます。「すべてのものが生きる。」私たちも聖霊の民として、聖霊の流れの中で、キリストにあるいのちを届けていく群れであり続けたいと願っています。ジョイ・ジシュー!

支援から福音をお届けし、開拓伝道へ

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団



泉福音キリスト教会 牧師
東松島アメイジング・グレイスセンター 代表 伊藤 博

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の東日本大震災の支援活動は、震災直後より岩手・宮城・福島で開始されました。現在、岩手県釜石市、宮城県東松島市、福島県いわき市と郡山市に拠点を設け、それぞれが活発な支援と宣教活動、さらには開拓伝道を行っています。

ここでは特に、東松島市での支援活動と宣教、さらに開拓伝道の報告をさせていただきます。

震災10日目より仙台市の泉福音キリスト教会を拠点に、東松島市で開始された泥かきや炊き出し、物資支援等の活動は、国内外のアッセンブリーの諸教会、米国アッセンブリー教団の宣教師団及び『コンボイ・オブ・ホープ』からの大規模な支援を受け、東松島市だけではなく隣接する石巻市、さらには岩手県陸前高田市に及び広範囲の被災地に、神様の愛による支援の品々をお届けすることとなりました。

支援開始後3か月頃の炊き出しの際、支援物資として聖書をお届けしたところ、皆様が喜んで受け取ってくださる姿を見て、被災された方々に福音をお届けする必要性を実感しました。

その後、炊き出しは主の導きによりイベント・コンサート形式となり、賛美や証そして福音が語られるようになり、皆様がそれを喜んでくださる姿を見て、被災地での福音宣教の必要性和可能性を信じるようになりました。

同年11月には、支援と宣教の継続と将来の開拓伝道を見据え、被災した元コンビニをお借りして、教団立の『東松島アメイジング・グレイス支援センター』を開設し、スタッフ数名が常時奉仕するようになり、『お茶のみ会』やコンサート等の各種のイベントによる支援と宣教がなされ、主を信じる方々が徐々におこされてきました。

福音宣教の継続、さらに開拓伝道所の可能性を祈り求める中で、主は建築用地となる良き土地を備えておられ、国内外からの支援によって必要も備えられ、ログハウスの『東松島アメイジング・グレイスセンター』を地域の皆様と共にセルフビルドで建築し、2016年3月に献堂式を行い、本格的な福音宣教が開始されました。

新センターには女性スタッフ2名が常駐するようになり、連日被災者の方々が訪れ、『お茶のみ会』はじめ各種イベントには毎回20名程の方々が、礼拝にも毎回10名程が集い、求道者や受洗者も起こされています。

センター建築の年から東松島市全域を対象にした、センターと被災者の皆様が共同開催している『東松島復興希望のコンサート』が、被災者の皆様に大きな喜びと希望を届けることになりました。今年4月には、震災でふるさとを失った大曲浜の皆様の新しい街『あおい地区』で『復興希望のコンサート in あおい』が開催されました。

東松島市最大規模の580世帯の集団移転による『あおい地区』は、街並みや住居は美しく快適ですが、そこにお住まいになる方々の心の傷は今も癒えていません。被災者の方々からの「アメイジングの持っているキリストによる慰めといやし、希望をこの街の人たちに届けて欲しい」とのご依頼を受けて、この地区初のコンサートを行うこととなりました。

集団移転による新しい街の完成等、見える形での被災地の復興は進んでいるものの、最も肝心なそこに住む方々の心の復興を、被災者の皆様が切に求めていることを知り、いよいよこれから、大胆に福音を宣べ伝え、キリストをお届けする時であることを実感しました。

これまで5年間東松島で支援活動に従事し、今春アッセンブリー中央聖書神学校通信科を卒業した女性伝道師の赴任を機に、4月より『東松島アメイジング・グレイスセンター』は、いよいよ教団立の開拓伝道所としての新たなスタートを切りました。今後共お祈りとご支援、ご協力をよろしくお願いします。





「ケンクレヤにある教会の執事で、私たちの姉妹であるフィベを、あなたがたに推薦します。」ローマ書 16 章 1 節。

「しかし、私もあなたがたのことを知って励ましを受けたいので、早くテモテをあなたがたのところに送りたいと、主イエスにあって望

んでいます。」ピリピ書 2 章 19 節。

「そこで、私は大急ぎで彼を送ります。あなたがたが彼に再び会って喜び、私も心配が少なくなるためです。ですから喜びにあふれて、主にあって、彼を迎えてください。また、彼のような人々には尊敬を払いなさい。」ピリピ書 2 章 28 節～29 節。

「私の様子については、主にあって愛する兄弟、忠実な奉仕者、同労のしもべであるテキコが、あなたがたに一部始終を知らせるでしょう。私がテキコをあなたがたのもとに送るのは、あなたがたが私たちの様子を知り、彼によって心に励ましを受けるためにほかなりません。」コロサイ書 4 章 7 節～8 節。

「彼は、前にはあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにとっても私にとっても、役に立つ者となっています。そのオネシモを、あなたのもとに送り返します。彼は私の心そのものです。」ピレモン書 11 節～12 節。

初代教会時代には、パウロの手紙が携えられて各地の教会に届けられました。現代においては、聖書のおことばを届けるのにいくつかの手段があります。まずは、講壇から会衆に神のことばを届けることがあげられます。生のことばで空気を読みながら、反応を読みながら届けます。そこにはリアルな生の応答が生まれて来ます。しかも時間差がありません。これは最も効果的に福音を届ける手段です。ことばをもって直接生身の人間に届ける方法は、古くから変わることがありません。これに勝る届け方はありません。

現代は IT 時代ですから、福音をスピーディに、同時に大量に、多方面に届けることが可能な時代です。映像画面も届けられるので本当にありがたいことです。便利この上ないツールです。しかし、この便利さが裏目に出ることもあります。発信者が特定されないで、間違った情報、教え、意図的な偽情報も飛び交うことになるからです。情報は一度拡散されると、取り返して訂正するのに多くのエネルギーと時間が必要になります。また、完全に訂正出来る訳ではありません。便利さの中に惑わしが同時に起こります。

大衆に届けるハードの技術革新が日進月歩ですが、重要なのはソフトです。福音に混ぜ物することなく、「種入れぬパン」を届けたいものです。ストレートな直球勝負の福音、あるときは変化球も織り交ぜながら届けることも必要です。神の変



わらぬ愛と恩寵とともに、悔い改めない罪には審判が待っていることの警告も隠さず届けたいものです。イエス様も終わりの時代に、自ら肉体を持たれ、直接人類に福音を届けられました。今は聖霊様と一緒に、イエス様の福音を携えて、家庭に友人に同胞に届けて参りましょう。

とどける ～ビル8階より～



日本チャーチオブゴッド教団

ライトハウス新宿チャーチ 牧師 松本博樹



私たちの教会は、ライトハウス(灯台)として地域の暗闇を照らすまことの光を「とどける」ために、13年前に東新宿の地で開拓されました。教会が手狭になったので、3年半ほど前に地下鉄東新宿駅の南側から北側へ移転しました。移転先はコーリアンタウンといわれる大

久保のはずれになります。

主は、この移転による問題を通して、私たちに多くのことを教え導いてくださいました。

まず、下見に行って驚いたことは、10階建のビル(各階2部屋)に5つの教会が入っていたことです。この地域は韓国の教会が多いこともあり、教会密集地帯でしたが、その中に日本人向けの教会がなかったので入る方向で考え始めました。

次は、部屋が8階だったことです。以前の教会はビルの1階でしたが、その倍の広さを確保するためには、1階は予算的に難しかったからです。このことは教会員の間で賛否が分かれました。反対理由は、私たちの教会が開拓当初から、子どもたちへの伝道に重荷をもっていたことに起因していました。子どもだけでエレベーターを使うこと、避難所への誘導などいろいろと問題が出てきました。加えて、8階では新来者を見込めないとの意見もありました。しかし、新来者については、以前の1階の教会でも少なく、お金の無心に来られる方のほうが多いのが実情でした。8階であっても、教会員が新来者を誘えば問題ありません。そのような話し合いの中で移転が決定しました。

感謝なことは、8階への移転によって、小学生対象のミニストリーが公園伝道へと導かれたことです。待つことから、出て行って「とどける」ことになりました。婦人がリーダーを務め、ユースの奉仕者が与えられていたことも公園伝道になっていました。その結果、多くの子どもたちが教会に来るようになりました。

3番目は、公園伝道によって教会に来るようになった子どもたちへの対応でした。教会に来る子どもたちは、非常に言葉が荒れていて暴力的でした。新宿区には、131カ国4万人以上の在留外国人がおります。(先日の平昌冬季オリンピックの出場国でも92カ国でした。)地域の小学校は、これからの日本のモデルケースになっていると聞きました。国民性の違い、差別、親からの放置、経済などいろい



ろな問題があります。スタッフは、教会で神様の愛と聖を守るために、子どもたちとまるで戦いをしているようでした。そのような中、毎週土日に教会に来る男子が、徐々に変えられていることが目に見えてわかりました。このことは、奉仕者への強い励ましとなっています。蒔かれた種から、多くの実が結ばれることを祈っています。

教会がひとつとなって、しっかりとイエス様の福音をこの地域にとどけていけるように願っています。

届く

日本ネクスト・タウンズ・ミッション

松阪キリスト福音教会 牧師 藤田光康



福音が私に届いた。

57年前のことである。福音は力がある。それまでの自分を根底から変えて、全ての価値観は全く新しくなり、人格と趣味もそれまでに培ってきたものがごとく破壊され、全てが新しい生命を持つに至った。キリストにあってあらゆる霊の祝福がもたらされた。

福音は今も同じ力で息づいている。

開拓伝道につかわされ、群がおこされ、牧会者となり50年が経つ。そして福音は新しくここから発信され、様々な人に届いている。その力は勢いを増し加え、あらゆるところに広まっている。

アメリカのメキシコ国境にある小さい町で、30年間静かにひっそりと暮らしていた日本人につかわされたことがある。サン・アントニオで出会った宣教者に導かれ、是非にということでその方を訪ねた。たちまちにその人がキリストに生命を見出し、地上の生涯を終える日まで忠実なクリスチャンとして、その教会の中心人物となったのは福音の力である。不明であった親族をも探し出し、九州を訪れ、松阪市でも礼拝に加わった。

またフィリピンの山岳地帯で、数多くの人に福音を届けたことがある。他民族からの迫害と戦いの中で、顔写真を見せることは危険というところで、ひともとの石油ランプの光しかない野外で、会衆の顔も見分けがつかない状態の中で多くの人々が回心し、イエス様を受け入れ、喜びの声をあげたのを今もしっかり思い出す。そして、福音はさらに各地に広がっていった。

教会を通して福音の力はこれからもその勢いを増し加えて、多くの知らない人に届けられている。キリストの愛のわざである。

この世に生を受け、福音に仕える恵みの数々を思い人生の確かな価値を見出した幸いを深く感謝する。



「イエスは彼らに言われた。『さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わたしは、そのために出て来たのだから。』」（マルコによる福音書 1:38）

この福音がもとになり、1956年、日本ネクスト・タウンズ・クルセード(現日本ネクスト・タウンズ・ミッション)が始められた。今や沖縄から関東にいたる町々に教会は生まれ、聖書の教えは広がっている。志を同じくする日本ネクスト・タウンズ・ミッションの同労者たちと福音を届ける働きは、これからも懸命に継続していくのである。

とどける

日本フォースクエア福音教団

シャインジーザスチャーチ 伝道牧師 福治友輝



2008年、山梨県の南アルプスフォースクエア福音教会（ブラジル人教会）へ日本人教師として手伝いに行っていた時のことです。当時、リーマンショックであちらこちらの会社が倒産するというニュースが流れていました。ブラジル人教会のある家族は、恥を忍びながら、車で寝泊まりし、一日一食しか食べていないという状況を話してくれました。何か良い方法がないものかと思案に暮れていた時、以前、賞味期限ぎりぎりの食品が貰えるところがあると聞いたことを思い出したので、その場所を早速訪ねてみました。事情を説明したところ一週間待つように言われ、その後、水曜日に貰えることが決まり、その時から毎週「コストコ」へ出掛けるようになったのが、ボランティアの始まりです。

「コストコ」から貰えるものは、パン、野菜、果物、お菓子…を中心に、毎週分量には変動があるものの、平均2カートくらいの商品です。それを車いっぱい詰めて教会へ運び、箱詰めし、遠くは山梨、静岡、栃木、福島、東京、近くは神奈川県内、教会の近所…など、現在13、4ヶ所に送りどけています。毎週、隔週、又は月一回と、必要とされる頻度は受け取り手に応じて様々ですが、この者は毎週水曜日には、完全に「パン屋」になりきって、今も奉仕を続けています。スタッフは、家族を中心に教会員（アルコール中毒から癒された方々など）が加わり、配送作業に一生懸命取り組んでいます。

受け取ったある大家族から「沢山のパンがすぐになくなります」とか、ある方からは「水曜日が待ち遠しいです」とか、食費を切り詰めて生活していた方からは「パンと野菜が与えられ助かっています」とか、「子供のおやつに助かっています」など、受け取られた方々にたまに会う時があるのですが、とても喜ばれている様子です。そういう話を聞くと、この奉仕に携わって来て良かったと思い、とてもやりがいを感じています。

毎週、配送準備が終わるとスタッフ全員で食事を戴くのですが、食前感謝の祈りの中で、コスト



この事業が繁盛しますように、そこで働く従業員が守られますように、商品を受け取った方々がそれをそれぞれの場所でうまく用いることができるように、又、奉仕をした一人一人が祝福されるようにと祈っています。毎回コストコから商品を買う時、この祈りの答えを感じながら受けとり、それぞれの場所で有効活用されるよう祈りながら送っています。

もう、10年余りになるでしょうか。この配送奉仕が今も続いていて、必要とされている方々ととどけることができる幸いを感謝しています。又、主は与え支え続けて下さっているからこそ、ここまでこられた幸いを感謝しています。これからも、このボランティア活動を毎週出来るように願っています。賞味期限ぎりぎりではあるけれど、必要とされる方々へ商品をとどけ続けていくことの導きを確認させられているところです。

愛をとどける

日本ベテルミッション

久留米ベテルキリスト教会 牧師 吉田一誠



自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。マタイ 22:39。

2016年11月下旬、イスラエル北部沿岸で大規模な山火事が連続して起こりました。(後にテロと認定)。このテロによって、森林が破壊されただけでなく、家が焼けるなど数千人が被害を受けました。

私たちの教会では、2015年からイスラエルのために祈る集会を持っています。その祈り会の中で一人の兄弟に、「放火テロで被害を受けたイスラエルを助けたい!」という思いが与えられました。その思いは、2017年4月29日に行われた“イスラエル支援カフェ”という形で実現しました。カフェ開催に向け、教会の有志が集まりイスラエル料理を作っては試食、作っては試食を繰り返しました。また、手作りの革製品やアクセサリー、BFP ジャパン (Bridges for Peace Japan) から雑貨を委託販売するなどし、募った献金とともに収益のすべてを支援金としてイスラエルに送ることにしました。

カフェ開催に向けての準備中、主は不思議な出会いを与えてくださいました。私たちはカフェで提供するイスラエル料理に苦戦していました。すると、何と、久留米市に在住しているイスラエル人の女性、カリンさんと知り合ったのです。お話を伺うと、カリンさんは教会と同じ地区に住んでおられることがわかりました。そして、久留米市でたった一人のイスラエル人です。カリンさんはイスラエル料理についてアドバイスをしてくださいました。また、当日のカフェにも足を運んでくださいました。彼女は、カフェのようすを見て、「なぜ、ここまでイスラエルのために尽くしてくれるの?」と胸がいっぱいになり、感謝されました。私たちは、「神さまがイスラエルを愛しているので、私たちもイ



スラエルを愛しています」と伝えました。彼女は感動し、目に涙を浮かべながらこう言われました。「ユダヤ人はどこの国に行っても嫌われることを私は知っています。だから、あなたがたがしてくれていることはとても嬉しい。」

その後、カリンさんはイスラエルのスパイスを持ってきてくれたり、時には、カフェを企画した教会メンバーの家で行われている交わりにも参加したりされています。

このイスラエル支援では、思いがけず日本に住む、しかも同じく留米、それも教会と同じ地区に住むイスラエル人にも愛を「とどける」ことになりました。カリンさんとの出会いは、神さまが与えてくださった出会いだと感じています。教会が自らイスラエルの隣人となり、愛を「とどける」というアクションを起こしたことにより、私たちにとってイスラエルは、もはや遠く離れた中東の国とは思えなくなりました。神さまのみこころは、私たちがイスラエルを兄弟のような存在であることを意識し、自らイスラエルの隣人となり、愛を「とどける」ことであると受け取りました。今後も、神さまが愛するイスラエルを私たちも愛して、「愛」を届けたいと思います。

とどける

日本ペンテコステ教団

代表 榮 義之



「とどける」とは、イエス・キリストの十字架と復活の福音を伝えることであり、それはすべての教団、教会、牧師・伝道師、教会員の祈りであり願いです。

富雄キリスト教会では、8年前から、やまのペリハビリセンターへアンサンブル演奏慰問を継続し、今年も5月に福音を届けます。そこは公立の施設であり、ほとんどの入居者が高齢者です。毎回、全入所者が全職員とともに参加します。前回、80代の体の不自由な老婦人が会場にきました。一度も笑うことなく、ものも言わず、職員にとって手強い存在でした。ところが、演奏が始まり、牧師の話や懐かしい歌を聞き、自然に顔もほころび笑顔が浮かびました。職員たちの驚きは並々ならぬものだったそうです。



熊本の益城キリスト教会は、東日本大震災の年から、満7年一度も欠かすことなく震災記念日に被災地を訪れ、豚骨ラーメンの炊き出しを続けています。その会場では、福音文書やマンガを配布し、熊本からの愛を届けており、これを10年間継続することを願っています。

熊本大地震の時は、教会駐車場が車内泊会場になり、教会も解体までの期間、民間ボランティ

ア会場として、毎日生ラーメンを提供したり、宿泊所としても提供しました。そのため、益城町役場が教会解体を行ってくれるという恵みもありました。今、教会は更地になり、年内にも建設の予定です。これからも、震災記念日には、豚骨ラーメンや賛美大会などで、被災地益城町の復興に取り組みます。

大阪救霊会館は、年中無休365日福音を届けています。大阪最大の労務者の地域であり、集会は毎晩満席で、伝道が続けられています。同時に、毎晩300名以上に食事を提供し続けています。他教団のボランティアも受け入れ、毎晩、熱い伝道メッセージが届けられています。

昨年、西宮でスタートしたみことば恵み教会では、トラクト配布や路傍伝道などで直接福音を伝え、昨年のクリスマスにはトラクトを見て28名も礼拝に参加しました。必要なのは使徒パウロが宣言したように、とにかく福音を宣べ伝えることであり、私たちの教団各教会もそれに取り組んでいます。「というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません。そのことは、私がどうしても、しなければならないことだからです。もし福音を宣べ伝えなかったら、私はわざわざいだ。もし私がこれを自発的にしているのなら、報いがありましょう。しかし、強いられたにしても、私には務めがゆだねられているのです。…私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みとともに受ける者となるためなのです。」(Ⅰコリント 9:16-23)

各教団各教会の福音宣教の上に祝福を祈ります。

とどける



フルゴスペル(純福音)日本総会

総会長 志垣重政

『しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。』(使徒 1:8)

主の御名を褒め称えます。

21世紀は、聖霊様の時代です。日本のリバイバル、この刈り取りのシーズンに、皆さまと共に日本の宣教伝道にお仕えできますことを心より幸いに存じます。

ご挨拶も兼ね、まずは皆様に、私たちの教団の沿革、活動、そして福音を『とどける』働きをご報告させていただきたいと思います。

私たちフルゴスペル(純福音)日本総会の活動の始まりは、ヨイド純福音教会、故崔子實牧師が、米アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の東洋宣教部長であったキャッチャム宣教師から、東京行き往復航空券をプレゼントされたところに遡ります。休養目的でプレゼントされた航空券でしたが、日本語にたけた崔子實牧師は約40日間、日本に滞在しながら伝道集会を導き、日本宣教への思いを燃やし続けました。この熱い聖霊様の熱は、ヨイド純福音教会の趙ヨンギ

牧師を動かしました。そして、神様が下さった『日本一千万救霊』のビジョンを掲げて、趙牧師による日本宣教が本格的に始まりました。

東京では、小さな家庭礼拝が始まっていましたが、その後その群れは成長し、麻布にあるロシア大使館隣の小さな一軒家を経て、1979年12月には東京四谷に教会堂を備え、純福音東京教会として正式に礼拝が始まりました。この頃になると聖徒は100名ほどに増えました。

1980年7月6日からは近畿テレビで『幸福への招待』が始まりました。そして『幸福への招待』が主催して、1983年には『不可能は可能になる』というテーマのもとに、日本武道館において2日間で6000人余りが集う聖会が開かれました。

東京教会は、1985年5月5日、四谷から新宿大久保へと移転しました。主日には数千人が集う大きなリバイバルを経験し、国内外のキリスト教界からも大きな注目を集めました。またその活動は東京だけに留まらず、宇都宮、続いて88年に横浜、大阪、神戸が開拓され、89年に千葉、名古屋、京都が開拓されました。1986年5月には、趙ヨンギ牧師を学長として、日本の200名以上の会員を牧会する牧師を教授とした亜細亜教会成長神学院（ACGI）が開校され、教界の注目を集めました。現在日本総会の下に、支教会を含めると、日本国内に80余りの教会が建てられ、地方教会も関東、房総、関西、東海、東北、東京、九州、極東ロシアに分けられて活動しています。祈禱院が東京教会の管理のもとに、東京秋川市にあります。

超教派的活動としては、「日本一千万救霊」の一環として『訪韓信徒大会』があり、1982年から、毎回多くの日本人が参加してきました。また、趙ヨンギ牧師を主講師に毎年開かれてきた『ジーザスフェスティバル』は、地方都市圏にある教会間の一致と教職の交わり、そしてリバイバルに貢献しています。

教団としての教職養成機関である『フルゴスペル神学大学・大学院』は、東京 ACGI と総会神学院を統合した神学校であり、現在総数100名以上の学生が学んでいます。

教団傘下にある80余箇所ある教会は、それぞれ個教会としてのビジョンの下に法人化が進んでおり、日本宣教をさらに拡大するため、教会開拓に邁進しています。『日本一千万救霊』のビジョンのもとに、当面の教会開拓目標として100箇所をかげ祈っています。

日本の失われた魂に、福音を『とどける』働きに怠ることなく、主が再び来られるときまで、邁進する教団でありたいと思っています。皆様のご加禱をよろしくお願いいたします。



日本ペンテコステ協議会総会雑感



日本ペンテコステ協議会

書記 佐藤成紀



2017年11月21日（火）正午より、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団中央聖書神学校チャペルにて、日本ペンテコステ協議会総会が開催されました。13教団から計22名の出席があり、また細井眞 JPN 代表のオブザーバー参加もありました。

寺田文雄議長が挨拶をし、昼食後に各教団から近況報告がありました。JPC 副議長の中見透師がディボーションを担当し、使徒 9:17-19 からパラダイムシフトの必要性が強調されました。前回議事録、2017 年度活動および会計報告について説明があり、一部訂正の上、承認されました。続けて、以下の 2018 年の活動計画について確認がありました。

日本ペンテコステ協議会研修会

日 時：2018 年 5 月 24 日（木）11:00～16:00

場 所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 中央聖書神学校チャペル

会 費：一人 3,000 円

プログラム：11:00～12:00 礼拝 説教：寺田文雄師

12:00～13:30 昼食

13:30～16:00 講演 テーマ：「とどける」

講師：廣瀬薫師、菊山和夫師

日本ペンテコステ協議会総会

日 時：2018 年 11 月 20 日（火）12:00～16:00

場 所：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 中央聖書神学校チャペル

2019 年 6 月の研修会は、イ・ヨンファン師に講師を依頼したとの報告もありました。2018 年度予算の諸項目について説明がなされた後、2018 年度の計画と予算案は満場一致で承認されました。

その他、翌日の JPN 懇親会や 2018 年に開催予定のゴスペルナイト、JPF カンファレンス、国家晩餐祈禱会、パワー＆ラブ、デイビッド・テイラー集会、東京リバイバル等の案内がありました。9 月に滋賀で開催される PAM（ペンテコステ・アジア宣教会議）日本大会の詳細い案内もなされました。また、昨年度 JPC に加盟した日本フルゴスペル教団は、「フルゴスペル（純福音）日本総会」に名称変更したとの報告がありました。最後に祈りをもって、総会が終了しました。

日本ペンテコステ協議会規約

1) 本会は、名称を『日本ペンテコステ協議会』(Japan Pentecostal Council 略称 JPC)とする。

2) 事務局

本協議会の事務局を日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部に置く。

3) 目的

本協議会の目的は、日本におけるペンテコステ信仰の健全な成長と発展を促進するために、ペンテコステの教団及び教団に準ずるグループの指導者・教職者間における交流を深め、情報交換及び相互理解を図り、教職研修を行うことにある。

4) 信仰宣言

本協議会の構成員は、以下の信仰宣言を告白するものとする。

1. わたしたちは、聖書が靈感された、唯一の誤りのない権威ある神の言葉であることを信じる。
2. わたしたちは、父と子と聖霊の三位において永遠に存在される唯一の神を信じる。
3. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの神性、処女降誕、罪のない生涯、奇跡、十字架の血による代償的贖罪的犠牲、肉体をもつての復活、父の右の座への高挙、また、力と栄光の中での再臨を信じる。
4. わたしたちは、失われた罪人のためには、みことばと聖霊による新生が不可欠であると信じる。
5. わたしたちは、異言の証拠を伴う聖霊のバプテスマを信じる。
6. わたしたちは、聖霊の今日的働きによる肉体の癒し、および種々の聖霊の賜物を信じる。
7. わたしたちは、聖霊の内在によって清い敬虔な生活が可能となることを信じる。
8. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストにおける信者の霊的一致を信じる。
9. わたしたちは、聖徒の復活、失われた者の審判、新天新地を信じる。

5) 活動

定期的に会議を開催し、各教団及びグループの指導者・教職者間の交流、意見・情報の交換、研修その他必要な活動を行う。広報誌と機関誌を発行する。

6) 総会

本協議会は最高議決機関として総会を置く。総会は、加盟教団にそれぞれの教会数に応じて割り当てられた数の代議員によって構成する。

50 教会以下 代議員 1 名 51～ 100 教会 代議員 2 名 101 教会以上 代議員 3 名

7) 役員

本協議会に議長、副議長、書記、会計を置き、その任期を 3 年とする。役員会は議長によって召集され、定期的に開催する。

8) 監事

本協議会に監事を置き、その任期は役員の任期に準ずる。

9) 経費

本協議会の経費は、加入団体の負担とする。

10) 附則

本規約は、1998 年 5 月 29 日より実施する。この規約の変更は総会の議決を経て実施する。

本規約は、2003 年 3 月 25 日および 2014 年 11 月 27 日に改正された。

日本ペンテコステ協議会 2017 年度会計決算報告書

2016年11月1日～2017年10月31日

収入の部		支出の部	
項 目	決 算	項 目	決 算
協 力 金	520,000	総 会	41,498
一 般 献 金	92,000	役 員 活 動 費	187,701
研修会礼拝献金	60,889	研 修 会	202,959
研 修 会 会 費	126,000	J P N 年 会 費	85,000
J P N 年 会 費	85,000	J P N 協 力 献 金	-
J P N 協 力 献 金	-	P W F 負 担 金	59,480
雑 収 入	54	P A M 負 担 金	57,665
		J P C ニュース	113,790
		新 聞 広 告	92,640
		事 務 諸 費	15,305
		P W C 参 加 積 立	50,000
		協 力 金	100,000
		予 備 費	-
小 計	883,943	小 計	1,006,038
前 年 度 繰 越 金	874,077	次 年 度 繰 越 金	751,982
合 計	1,758,020	合 計	1,758,020

<協力金納入団体>

単立ペンテコステ教会フェローシップ	50,000円
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団	150,000円
日本チャーチオブゴッド教団	50,000円
イエス・キリスト福音の群	20,000円
日本ネクスト・タウンズ・ミッション	20,000円
日本フォースクエア福音教団	40,000円
シオン宣教団	30,000円
日本オープン・バイブル教団	40,000円
日本ベテルミッション	20,000円
日本ペンテコステ教団	30,000円
サンビ教団	20,000円
フルゴスペル(純福音)日本総会	50,000円
合 計	520,000円

<PWC参加積立>

2017年度	50,000円
残 高	50,000円

日本ペンテコステ協議会 加盟団体一覧 (50 音順)

イエス・キリスト福音の群 〒981-3604 宮城県黒川郡大衡村ゴスペルタウン 東北中央教会 TEL 022-345-2991 kakudai@ruby.ocn.ne.jp	代表	永井信義
神の家族キリスト教会 〒464-0094 愛知県名古屋市中種区赤坂町4-64 クリスマンライフ TEL 052-721-7831 info@christian-life.jp	代表	水野明廣
サンビ教団 〒730-0812 広島県広島市中区加古町14-8 ジーザスフェローシップ広島 TEL 082-241-8957 jfhkakomachi@yahoo.co.jp	代表	辻 秀彦
シオン宣教団 〒920-0816 石川県金沢市山の上町26-48 金沢グレイスチャペル TEL 076-253-1790 joshua1992shingo@icloud.com	代表	辻本眞悟
単立ペンテコステ教会フェローシップ 〒509-0141 岐阜県各務原市鵜沼各務原町4-406-11 岐阜純福音教会 TEL 058-385-0670 mail@gifujun.com	議長	小山大三
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20 TEL 03-3918-5935 japanaog@ag-j.or.jp	理事長	寺田文雄
日本オープンバイブル教団 〒653-0845 兵庫県神戸市長田区戸崎通3-9-12 神戸キリスト栄光教会 TEL 078-612-5511 (denen-chapel@mpd.biglobe.ne.jp 山口)	代表	菅原 亘
日本チャーチオブゴッド教団 〒146-0093 東京都大田区矢口2-1-18 東京ライトハウスチャーチ TEL 03-3758-1625 eriya@cog.jp	監督	八束選也
日本ネクスト・タウンズ・ミッション 〒513-0035 三重県鈴鹿市矢橋町471-2 鈴鹿キリスト福音教会 TEL 059-383-5145 elim@mecha.ne.jp	代表	岩井繁信
日本フォースクエア福音教団 〒359-1125 埼玉県所沢市南住吉10-8 教団本部 TEL 04-2923-1858 https://www.japan-foursquare.jp/form.html	総理	大城けい子
日本ベテルミッション 〒197-0003 東京都福生市熊川1101 福生ベテル教会 TEL 042-551-1327 fussabethel@gmail.com	代表	津坂良夫
日本ペンテコステ教団 〒630-0243 奈良県生駒市俵口町951 生駒聖書学院 TEL 0743-74-7622 elimyoshi@kcn.jp	代表	榮 義之
フルゴスペル(純福音)日本総会 〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2丁目2-19 純福音東京教会 TEL 03-3232-0667 (m.senoo1001@gmail.com 妹尾)	総会長	志垣重政



日本ペンテコステ協議会

【事務局】日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部内

〒170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20

TEL. 03-3918-5935 FAX. 03-3918-0474